

青 ■ 小豆島町
緑 ■ 土庄町

- 年間処理量 約1万t(1日約30t)
- 施設年間稼働日数 約260日
ほとんどの日において7~23時まで焼却炉稼働
- ごみの種類の4割にあたるのが紙や布
- 家庭から出したごみの5%が灰となり最終処分場へ

- <課題>
- 人口減だが、ごみの全体量は増。近年は事業系ごみが増加
 - 包装材等のプラごみが増え、炉を傷める要因のひとつとなっている
 - 焼却灰の中に金属片や事業用の不燃ごみが入っていることも
 - 可燃ごみの中にはリサイクル可能な「紙」なども多く含まれている



現在の徳本処分場は1995年に完成。満杯となってきたため、2022年度からは容量7.8万立方メートル(最大拡張で10.3万立方メートル)の新しい処分場が供用開始される。

島外搬出

現在、土庄町内には最終処分場が無いため、中間選別を経ても再利用できない廃棄物は県内へ搬出、処分。土庄町分の焼却灰は県外へ搬出している。



- 再資源化処理
- 電器店など ← リサイクル家電(テレビ、エアコン)
 - 専門業者 ← パソコン、スマートフォン
 - 専門業者 ← 消火器
 - リサイクル協力店 ← ボタン電池、充電式電池、リチウムイオン電池
 - 町役場回収ボックス ← 小型家電



土庄町住環境課 橋本係長

土庄町は、現在最終処分場が町内に無いことが喫緊の課題です。その反面、町民のごみに対する意識の変化は感じられるようになりました。不燃ごみは、町内事業所が島外搬出ごみを減らせるようにご協力ください、大部分のごみが再資源化できています。より一層のごみ削減に取り組んでいきたいと考えています。



小豆島町住民生活課 谷本課長

小豆島町では「ごみの減量化」に取り組んでいますが、各家庭でどのように捨てるか(分別など)が、ごみの量にそのまま直結します。町内に最終処分場がありますが、不燃ごみは中間処理されずにそのまま処分場へ行きますので、一人一人がそういった認識を持ちながらごみについて関心を持ってもらえればと思います。

大好きな島が あり続けるために 私たちができること

調査① 私たちが捨てた“ごみのゆくえ”を調べてみました!

(家庭系一般ごみ)

分別は、ごみを減らす第一歩。
今回、不燃ごみの日の収集作業に同行させていただきました。地区によって分別ができていたりもあれば、不燃ごみは必ずペットボトルや缶がたくさん入れられている地区もありました。本当は資源ごみとしてリサイクルできるはずのものが、島の中にそのまま捨てられていると思うと心が痛みます。



収集してくれる方への配慮を!

スプレー缶をそのまま捨てていることで爆発・火災が発生し、収集車が何台も故障していることでした。また、ガラス片、針・刃物、竹串などをそのまま捨てていることが原因で、作業員の方が頻りにケガをしているそうです。自分の手から離れたら関係ない、ではなく自分が捨てた後に作業してくれる人のことを考えて捨てないといけなく強く思いました。

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「どの課題」を調べるかという最初の話し合いで、全員一致で「ごみ」にしよう決めました。島民すべての人が関係する身近なことなのに、ほとんど知らない「ごみ」のこと。今回、半年ほどかけて、各施設の見学や行政担当課の方・施設の方にお話を伺いました。考えさせられるインプットばかりでしたが、最後に私たちが提案をしましたので、ぜひお読みください!

家庭から出るごみの種類

一般ごみ	粗大ごみ	可燃ごみ
一般ごみ	粗大ごみ	
缶	びん	不燃ごみ
ペットボトル	古紙	
発泡トレイ	段ボール	資源ごみ
発泡スチロール		
自動車等部品	危険・有害物(農業・廃油等)	回収不可
(耐火金庫、ピアノ等)	運搬・処理困難物	

※ 専門業者等に回収依頼

この島を愛している人なら、「**ごみが自分の手から離れてからどうなるか?**」にも関心を持とう!



基本の3R

リサイクル(再資源化)、リユース(繰り返し長く使うこと)やリデュース(ごみの発生を少なくする)の「3R」はご存知の方も多と思います。その他に、リフューズ(ごみの元になるものを買ったり貰ったりしない)、リペア(直して使う)、レンタル(所有せず借りて済むものは借りる)といった考え方も大事です。